

いくたあつもり

生田敦盛

内藤 飛能

ほたるびのう

螢火能

ほたるびのう

名古屋宝生会

名古屋宝生会

名古屋宝生会

令和七年六月十五日(日)

十三時始(開場十二時)

名古屋能楽堂

撮影/工房円

たまのい

玉井

宝生 和英

鑑賞券 5,000円(税込) ※各回1回限り

学生券 2,000円(税込) ※各回1回限り

※中学生以上30歳以下の学生

入場券料(税込料金)(全自由席)

●入場の際には、受付にて入場券をお渡しください。

●上演中の写真撮影、テープレコーダー、携帯電話等のご使用及び、演能やほかのお客様の迷惑となる行為はご遠慮願います。場合によっては退場していただくこともございますのでご了承ください。

名古屋宝生会公式ホームページ

名古屋宝生会

名古屋宝生会

名古屋宝生会

鑑賞に役立つイヤホンガイド(使用料500円)と能楽師による演目解説(12時半開始)により初めての方でも楽しみいただけます。

名古屋宝生会

演者

紹介

宝生 和英

玉井 シテ

Q1 能「玉井」の見どころは?

A 日本神話の壮大な世界観をお楽しみ頂けます。

Q2 この曲に対する思い

A 宮崎県青島神社で感じたパワーを舞台上で表現したいです。

Q3 演能に際してひと言

A ハワイの神話とも繋がりを感じるので、日本らしさの他にポリネシアも感じられるかもしれません!

1986年東京生まれ。父、第19世宗家宝生英照に師事。宝生流能楽師佐野萌、今井泰男、三川泉の薫陶を受ける。1991年 能「西王母」子方にて初舞台。2008年に宝生流第20代宗家を継承。これまでに「鶯」「乱」「石橋」「道成寺」「安宅」「翁」、一子相伝曲「双調之舞」「延年之舞」「懺法」を披く。伝統的な公演に重きを置く一方、異流競演や復曲なども行う。また、公演活動のほか、マネジメント業務も行う。海外ではイタリア、香港を中心に文化交流事業を手がける。2008年東京藝術大学アカンサス音楽賞受賞、2019年第40回松尾芸能賞新人賞受賞。2023年よりミラノ大学客員教授に就任。

内藤 飛能

生田敦盛 シテ

Q1 能「生田敦盛」の見どころは?

A 敦盛没後ではありますが親子の深い結びつきが描かれていて、残された子が賀茂の明神や生田の森をどんな思いで旅して父を捜し回るのかという所です。

Q2 この曲に対する思いについて

A 敦盛は「人間は死んでしまえば空になり、自分を愛する意味も分からず、身体は夜の月に浮かび、魂は秋風に泣いているようだ、なんと悲しいのだろう」と胸の内を述べて登場します。遺子が尋ねてきた事はさぞ嬉しかった事と思います。また「中ノ舞」という舞を親子の再会を喜び舞うのですがこの位どりが(速さや趣)難しいです。能「敦盛」も同じ中ノ舞を舞うのですがこちらは最後の戦に向かう前に今様を謡い舞う舞、同じ敦盛の舞でも思いが違ってきます。

Q3 演能に際してひと言

A 子方を小学五年生の長男瑞駿(みずはや)が勤めさせていただきます。親子共々芸道に励みます。

1980年愛知県生まれ 能楽師・内藤泰二の孫 名古屋市立向陽高等学校、東京藝術大学卒。名古屋 宝生会同人/個人演能会「飛座」/同門会「飛雲会」主宰/名古屋大学宝生会指導/2022年豊田市文化 奨励賞受賞

名古屋近辺の催し(★は名古屋能楽堂)

3月 2日(日) 能『小鍛冶』衣斐愛・内藤飛能(名古屋能楽堂3月定例公演)★

7月19日(土) 能『三笑』衣斐正宜(日本能楽会)★

7月27日(日) 能『舍利』衣斐愛(第10回逢の会)★

9月 6日(土) 能『橋弁慶』宝生和英(長良川薪能)

12月 6日(土) 能『船弁慶 後之出・留之伝』和久莊太郎(豊田市能楽堂普及公演)

第一日

名古屋宝生会七十周年記念別会

令和8年1月25日(日) 13時始

正 熊

鞍馬 鶴 翁

天狗 曲入

シテ 宝生 和英

シテ 衣斐 正宜

千歳 石塚 尚寿

シテ 内藤 飛能

第二日

名古屋宝生会七十周年記念別会

令和8年6月21日(日) 13時始

尊 野

勝行・三段之舞

シテ 衣斐 愛

シテ 和久莊太郎

名古屋能楽堂(名古屋城正門前)

TEL052-231-0088 名古屋市中区三の丸1-1-1

お問い合わせ・入場券取り扱いは、出演能楽師、名古屋能楽堂、または下記まで

名古屋宝生会 TEL/FAX 052-889-3430

メール nagoyahoshokai@castle.ocn.ne.jp

〒466-0051 名古屋市長久保区御器所2-13-22-202 坂口方

プレイガイド(鑑賞券のみ取扱い): 芸文(地下2F)/栄プレチケ92(栄地下街16番出口)/名古屋市文化振興事業団(ナディアパーク8F)

名古屋宝生会 オンラインチケットサービス https://www.nagoyahosho-kai.com/

Confetti カンフェティチケットセンター 0120-240-540 (受付時間 平日10:00~18:00)

主催／名古屋宝生会 後援／名古屋市・(公財)名古屋市文化振興事業団(公社)宝生会

番

組

令和7年6月15日(日) 13時始

12時30分

解説 和久莊太郎

13時

ツレ 葛野 りさ
ツレ 衣斐 愛
シテ 宝生 和英

【復曲能】玉井

ワキツレ 橋本 叡
ツレ 橋本 宰
ワキツレ 相元 正樹
間 野村又三郎
野村 信朗
伊藤 泰

後見 野月 聡
小倉伸二郎
内藤 飛能
地謡 石塚 尚寿
木谷 哲也
川瀬 隆士
佐野 弘宜
東川 尚史

休憩15分

【狂言】不見不聞

シテ 松田 高義
アド 伊藤 泰
野村又三郎
後見 藤波 徹

【仕舞】班女

クセ 衣斐 正宜
地謡 坂口 侑
葛野 りさ
和久莊太郎
松浦 祥子

休憩15分

【能】生田敦盛

子方 内藤 瑞駿
シテ 内藤 飛能
ワキ 飯富 雅介
大鼓 河村裕一郎
小鼓 船戸 昭弘
笛 山村 友子
後見 宝生 和英
和久莊太郎
石塚 尚寿
地謡 吉田 隆文
清水 達郎
片桐 真
佐野 弘宜
東川 尚史

16時30分

終演予定

2025年 名古屋宝生会蛭火能 インタビュー「玉井」の間狂言について

回答：野村又三郎

Q1 今回上演する「玉井」の間狂言についてお話を伺います。
間狂言のところに三人の方のお名前がありますが、それぞれどのような役なのでしょう？

A. 小書の無い通常の間狂言（※略してアイ）の場合には「鱗の精。」という漠然と魚類をイメージして擬人化した海中の生物が登場しますが、小書（貝尽）になると複数人の貝の精が登場します。
当家の伝書には、基本としてオモアイが栄螺で、その他については「ハマクリホラカイ杯吉 工夫スヘシ」となっているので、立衆は終曲部の謡に名前の挙がってい鮑・板屋貝・蛤・簾貝・桜貝・鳥貝・赤貝と、計八種を登場させドンチャン騒ぎ(?)をしますが、今回は諸般（大人の？笑）事情もあって選抜したTOP 3で勤めます。

Q2 貝の精は、どのような格好で登場しますか？

A. 基本的には〈厚板／水衣又は側次／括袴に脚絆〉を着て、擬人化役で多用する囃・賢徳等の面を着け、後シテの龍戴のパロディ…つまり模倣した各種の「貝戴。」を黒垂や白垂の上に載せて仰々しくする事もあり、通常アイの様に末社頭巾で勤める事もあります。
また蛤に関しては、曲中で「上臈貝。」と表現がされているので、纏着流にする事もあります。

Q3 貝の精は舞台上でどのようなことをするのですか？

A. 能の前段の様子…つまり、ワキの彦火火出見尊が兄・火闍降尊が大切にしていた釣針を海に落としてしまい兄の怒りを買った事、釣針を探しに行った海中の海神の里での豊玉姫・玉依姫姉妹との出逢い、そして豊玉姫と契りを結んで海神の婿となり、三年の月日を経て無事に釣針を取り戻し、海神から銭別に潮満珠と潮廻珠を貰って日本へ帰る事を語りますが、小書（貝尽）の場合にはその日本への門出を祝す宴が設けられて、貝たちが謡いつ舞いつつて酒宴をする場面が加えられます。

Q4 シテやツレがいったん舞台からいなくなる間を盛り上げる「玉井」の間狂言ですが、最後に、この曲の「間狂言」の見どころを教えてください。

A. 前回の【車僧】のアイの時にも少し触れましたが、我々狂言方の立場は「シテやワキの邪魔をしてはいけない」が大前提でありながら、【貝尽】は最も多い〈居語〉や〈立喋〉と違い、殊に能狂言創始期の「風流芸。」の古態を残した寸劇形式の替間の場合には一抹の清涼感を醸し出さなければいけないものの、ともすれば前場と後場を寸断してしまいかねないため、現代の能会においての上演には配慮が必要になろうかと思っています。
とは言え、今回のように主催者様からの御要望で減多に上演する機会の無い替間を勤めさせていただくからには、企画主旨に則り【貝尽】の本来の意義・意趣を大事にしつつ、丁寧に勤めたいと思っていますので、会席料理の箸休め、アイスクリームに添えられたウエハースを召し上がるような感じで御覧いただければ…と思います。

【復曲能】玉井 「たまのい」

彦火々出見尊（ワキ）は、兄の火闍降尊から借りていた釣針を魚に奪われ途方に暮れていましたが、塩土老翁の教えに従い、海之都へと向かいます。そこで尊は銀色に輝く井戸を見つけ、そばにあった桂の木に隠れて様子を伺っていると、海神の二人の姫、豊玉姫（前シテ）と玉依姫（前ツレ）が現れます。姫たちが井戸から水を汲もうとすると、水面に映る尊の姿に気づき互いに名乗りあいます。尊は海神と対面し事の経緯を語ると海神は尊を婿に迎え、釣針を探し出すことを約束し、姿を消します。再び豊玉姫（後ツレ）と玉依姫（後ツレ）が現れて、潮の満ち引きを司る潮満玉と潮廻玉を尊に与え、海神（後シテ）は約束の釣針を尊に与えると、二人の姫は舞を舞い、海神は尊を大鰐に乗せて日本へ送り出すのでした。

◆古事記や日本書紀に描かれる海幸彦・山幸彦の神話が題材となっています。
彦火々出見尊の孫には初代天皇の神武天皇がおり天皇家誕生へ続いて行くのは興味深い所です。明治の名人として知られる十六世宗家宝生九郎知栄の時代から廢曲となっていたものを、二十代宗家宝生和英が江戸時代に演じられていた資料を元に2023年に復曲させました。

【狂言】不見不聞 「みずきかず」

主人（アド）は外出するので座頭の菊市（アド）を呼んできて耳の遠い太郎冠者（シテ）と二人で留守番をさせます。二人は相談して万一盗人のような物音がしたら、太郎冠者の袖を引く事を決めます。菊市はいたずらに袖を引き太郎冠者が騒ぐのを喜びます。腹をたてた太郎冠者は、小舞を舞うから終わった合図に顔をなでると約束し、舞い終わるとなんと足で顔を撫でます。そうとは知らずに菊市は舞を褒めるので太郎冠者は大笑い、結末はいかに。

「座頭」とは江戸期における盲人の階級の一つです。これより転じて按摩、針灸、琵琶法師などへの呼びかけとして用いられました。聾者と盲人のやりとりなので現代では上演が少し難しくなっている曲です。

【仕舞】班女 クセ 「はんじょ」

美濃国・野上の宿の花子（シテ）という遊女が思い人の吉田少将と取り交わした形見の扇を眺め、独り身の寂しさを嘆き悲しみます。

【仕舞】鵜飼 「うかい」

閻魔大王（シテ）が殺生禁断の禁制を破った罪で殺された本来地獄に落ちるべき鵜使いを救います。生前鵜使いは恩を受けた僧による弔いもあり、法華経の功德も讃えて消えて行きます。

【能】生田敦盛 「いくたあつもり」

あるとき法然上人は松の木の下に捨てられていた美しい幼子（子方）を助けます。その子が十歳になる頃、上人が説法場でこの事を語ると、一人の女が名乗り出て私はその子の母で父は二ノ谷で戦死した平敦盛だと言います。これを聞いた幼子はせめて夢の中で父に会えるようにと法然上人の従者ワキと共に賀茂の明神へ参詣します。そして「生田の森へ下りなさい」とのお告げに従いさらに生田の森へ向かいます。そこは都で聞き及んでいたよりも景色や川の流れが面白くこかしこと名所を見て回りました。やがて日が暮れてしまったので人家に泊まる事になりました。そこには不思議な事に華やかな甲冑姿の若武者・敦盛の霊（シテ）が現れ、親子の対面を果たします。敦盛が生前の事を語りわが子との再会を喜び舞を舞っている所に、閻魔王の使者が現れ帰りの遅い敦盛を連れ戻そうと辺りは修羅場と化しますが、やがて治まり再び静寂に包まれると敦盛は別れを悲しみ消えて行きます。

◆不運な境遇の幼子が亡き父の跡を慕って旅に出るという健気な姿と、若くしてこの世を去りわが子に会えなかった敦盛の心の葛藤が描かれています。